

- ボディカバナーなどの樹脂部を清掃するときには、水で洗い流してください。汚れがひどい場合は、水で洗い流しながら中性洗剤を含ませた柔らかい布またはスポンジで汚れを落とし、もう一度水で洗い流してから拭き取ってください。乾いた状態で拭くと、樹脂部に傷をつけますので避けてください。
- 洗車時、マフラーに水が入れないでください。マフラー内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になります。
- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなることがあります。洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしらばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 車にワックスをかけるとき、塗装面及び樹脂部をコンパウンド、ワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。

ウインドスクリーンの取扱い

ウインドスクリーンは安全視界を確保するためにもきれいにしてください。

ウインドスクリーンにアクセサリーを取付けないでください。運転の妨げになるばかりでなく、アクセサリーの吸盤がレンズのはたらきをして、火災などの思わぬ事故をまねくことがあります。

ウインドスクリーンは樹脂部品のため、ガラス製と異なる注意が必要です。次の項目を守ってください。

- ウインドスクリーンの表面が氷結している時は、スクレーパー、解氷剤や霜取り剤などのケミカル用品は使用せず、多量のぬるま湯をかけ解氷させてから、ワイパで拭き取ってください。解氷剤や霜取り剤などのケミカル用品は、有機溶剤を含んでいますのでウインドスクリーンやルーフに悪影響を与えます。
- ガソリン、ブレーキ液または洗淨液などの化学物質がメーター、ウインドスクリーン、ルーフ、ボディカバナーなどの樹脂部品にかかると、亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。

- ウインドスクリーンやルーフの清掃は、水で洗い流しながら中性洗剤を含ませた柔らかい布またはスポンジで汚れを落とし、もう一度洗い流してから拭き取ってください。乾いた状態で拭くと、ウインドスクリーンやルーフに傷をつけますので避けてください。
- ウインドスクリーンにワイパブレードの摩耗物が付着した場合も、同様に清掃してください。
- コンパウンドやワックスなどで磨かないでください。ウインドスクリーンやルーフに傷をつけます。
- ガソリン、シンナーなどの有機溶剤および酸性・アルカリ性の洗剤は、ウインドスクリーンやルーフに悪影響を与えますので使用しないでください。